

平和で静かな空を

第四次厚木爆音訴訟原告団ニュース

No. 60

発行：2017年12月22日

連絡先：大和市桜森 3-5-3 フォントビル1F 第四次厚木爆音訴訟団 電話：046-200-5505 URL: <http://www.asahi-net.or.jp/~wu9m-situ/>

第四次厚木爆音訴訟原告団 解団記念式典



二〇一七年一月二六日第四次訴訟解団記念式典が相模大野ホテルセンチュリーで行われました

解団式を終えて

第四次厚木爆音訴訟原告団
団長 金子豊貴男

11月26日、10年にわたった第四次厚木爆音訴訟団の解団式が相模大野で行われました。

原告や弁護団、そして多くの来賓の皆さんに参加頂き、賑やかな式典を開催できました。参加頂いた皆さん、10年余り、裁判を支えて下さった皆さん、ありがとうございました。

厚木基地の爆音被害を訴えた活動は、57年前の厚木基地爆音防止期成同盟の結成以来、国や、米軍への要請、基地北側での座り込み、集会やデモ等様々な取り組みの上に、国を相手の裁判に進み、1976年9月の1次訴訟提訴以来40年、4回の裁判を繰り返してきました。1次訴訟と今回の4次訴訟が、飛行差止めを求めて最高裁まで進んだ裁判でした。

今回の4次訴訟では、横浜地裁、東京高裁の判決で成果を上げる事ができました。特に東京高裁の判決では「自衛隊機の夜間飛行差止め」という大きな成果を上げる事ができました。

最高裁では負けたものの、次の闘いへの展望を切り開いた判決でした。

4次訴訟団では16年12月8日の最高裁判決を受けて、第5次訴訟の準備を進めるとともに、「4次訴訟のまとめ・記念誌の作成」、「訴訟団の解散」に向けた取り組みを進めてきました。

判決で確定した損害賠償金の整理、裁判所や弁護団に支払う会計の整理、原告団活動の整理等、様々な事後処理がありました。これらの残務整理も1年かけてほぼ終了し、解団式にこぎつけたものです。

4次訴訟は厚木基地の爆音をなくす闘い上、多くの成果を上げたと思います。7千名の原告が一つになって、「平和で静かな空を」と訴えた日々の活動は、日本政府や米軍、自治体にも大きな影響を与え、「厚木基地の艦載機部隊を岩国基地に移駐させる」という状況を作りだしました。

岩国移駐はまやかしの移駐であり、騒音が減るとは考えられず、今後も厚木基地の艦載機を、騒音を、「米本国に持ち帰れ」の運動が必要ですが、国や米軍が「いいわけの取り組み」をせざる

をえない環境を作りだしたことは間違いありません。厚木基地の騒音被害を、全国的な課題として、政府を動かした事は間違いありません。

また、全国の爆音裁判を進める訴訟団との連携も進める事ができました。沖縄の普天間や、嘉手納訴訟団、山口県の岩国訴訟団、石川県の小松訴訟団、東京都の横田基地の二つの訴訟団と「全国爆音訴訟団連絡会議」を作り、お互いの裁判闘争の連携を進める事ができました。

昨年には弁護団の連絡会議も出来ました。12月18日には新たに宮崎県の自衛隊・新田原基地の爆音訴訟も提訴にこぎつけました。全国で爆音訴訟に対する関心が高まっています。

さらに、12月1日には厚木基地訴訟の記録整理、活用、実態調査、情報収集、交流等を目的に組織の立ち上げを進めてきたNPO法人「爆音訴訟調査研究センター」の法人認可が下りました。

5次訴訟も、8月4日に6千名で横浜地裁に提訴。12月1日には2千名で追加提訴。厚木基地の裁判では過去最高の8千名の大原告団となり、12月9日に原告団総会も開かれ、規約や役員も決定しました。今後は追加原告の募集と提訴、第1回口頭弁論へと進みます。

4次訴訟団は今月一杯(2017年12月)で基本活動は停止、来年3月には全ての活動を終了する予定です。

今回の原告団ニュースが10年の活動の最後の号になります。この間、原告団の活動を支えて下さった原告の皆さん、支援団体の皆さん、弁護団の皆さん、そして事務局・役員の皆さんに、



感謝とお礼を申し上げ、ご挨拶とします。長い間のご支援ありがとうございました。

沖縄支援行動 第一陣12/13~15報告

報告：新井真知子



解説者・金子団長と中坪ツアーコンダクターに導かれ、濃厚にして充実した沖縄ツアーは、那覇に向かう旅客機内テレビ映像の衝撃で始まった。世界一危険な普天間飛行場すぐ脇のクリアゾーン内にある小学校校庭に米軍機からの窓枠落下! 児童50人が体育授業中に。ゼロコンマ何秒かの差で大惨事につながったかもしれない。一週間前に保育園の屋根に部品を落下させたばかりではないか! 我らツアーの面々は怒りと恐怖と不安を抱えて沖縄の地に降り立った。まづはスケジュールに沿った行程だ。沖縄戦激戦地だった嘉数高台に登り、一週間に二度までも部品を落下させた米軍機が所属する普天間飛行場を俯瞰した。次は静かに佇む名所、佐喜真美術館を訪れ、丸木位里・俊による「沖縄戦の図」を前にして、72年前の語るも苦しい沖縄の人々の苦悶・絶望と絶命の姿に深く頭(こうべ)を垂れた。そして足早に「落下事件」現場へ向かった。市民と報道陣をシャットアウトしていた現場だが、ようようにして開かれた門扉をすり抜け滑り込み、落下跡地を目にした。勿論全ては取り除かれ、落下物等身大のかたちがグラウンドに砂で描かれていた。校庭間際に米軍基地のフェンスが張り巡らされている異常さに、改めて固唾をのんだ。これが日本政府の姿だ。子ども達の命を守るよりも、米国の軍事戦略に従うことを最優先する日本政府の姿だ。そして校庭の端っこ、至近距離かと見まがうほどの位置に、低空飛行で着陸態勢のオスプレイ。校庭すぐ傍の藪からかいま見えるオスプレイ。子ども達はこれらを日常的に目にしており、これが沖縄の教育現場で許されている状況なのだ。沖縄の人々の憤りを思いながら、彼らの怒りと抗議の緊急集会会場の宜野湾市役所前へ向かった。

ツアーの我々に今できることはそれへの参加位であり、金子団長の連帯挨拶に我らの思いを託した。翌日は午前中数時間だけ「観光」を許され首里城の見学。沖縄戦で日本軍の司令部が置かれ、当然にして、米軍による爆撃で首里城は焼失し1992年に復元された。中国と日本の文化が混合する琉球独特の城を眺め歴史を改めて実感した。続いて今回のメインテーマ、普天間訴訟高裁公判の傍聴とそれに先立つ集会への参加。公判は国側が「危険への接近」論を回避したため、原告側との論戦は行われず、数10分で終了。

「国は恥ずかしくなって引っ込めた」と、嘉手納訴訟団の方が言っていた。次々と行程は続き、米軍基地も何処までも続く。嘉手納基地へ向かう道中も車中でリラックスなどしてはられない。何度も途中下車して、キャンプ・キンザー、キャンプ・フォスターを遠望し、『キンザー』は相模補給廠と同じ機能をもつが、ここには武器弾薬も保管されているとの解説を聞いた。米軍基地を左右に見ながら車は進み、かつては「安保の見える丘」と称された地に建つ「嘉手納道の駅」から嘉手納基地を見渡した。4000mの滑走路を持つ、極東最大の米軍基地として、朝鮮・ベトナム・イラク戦争へと米軍機は飛び立ったのだ。どんなにか沖縄の人々は悔しく、苦しい思いをしたことだろうか。私達はそれを彼らに背負させたままなのだ。「太平洋に展開する米兵力の25%、在韓米軍と同数の25000人の米兵がひしめく小さな島の『軍事ファースト』は住民を押しつぶす」との屋良朝博さんの言葉が浮かぶ。ツアー最後のイベントである米国退役軍人方々との交流会で、戦争をさせない意志と行動をつなげていくことを誓いつつ、学びの多かった二日間のツアーは終了した。このような機会を与えて下さった第四次厚木爆音訴訟原告団や沖縄の皆様へ感謝

年末・年始のお休み

第四次厚木訴訟原告団の年末年始のお休みは12月28日(木)~1月4日(木)まで
1月5日(金)以後は第五次訴訟原告団に連絡をお願いします。
電話046-200-5332



原告団活動日誌

9月22日	原告団ニュース59号発行
10月13日	堀大3役員会議
10月14日	(ピースフェスティバル 雨天中止)
10月20日	経費返却 最終振込日(24世帯)/記念誌委員会
10月26日	記念誌委員会
10月31日	役員会
11月6日	記念式典委員会
11月8日	県央共闘会議 参加
11月10日	記念式典委員会
11月13日	記念式典委員作業
11月14日	平和センター幹事会 参加
11月22日	(艦載機 C-2A 沖縄南東沖で墜落 搭乗員3名行方不明)
11月25日	全国基地爆音訴訟原告団連絡会議 事務局長会議/(オスプレイ3機 厚木基地着陸)
11月26日	解散記念式典(小田急ホテルセンター-相模大野) 366名参加/(オスプレイ2機 厚木基地-空母間 離着陸)
11月27日	(オスプレイ2機 厚木基地-空母間 離着陸)
11月28日	オスプレイ、艦載機監視行動(基地北側)/(オスプレイ2機 厚木基地-空母間 離着陸)
11月29日	オスプレイ飛来、艦載機爆音抗議行動(厚木基地正門、南関東防衛局)/(オスプレイ2機 厚木基地-空母間 離着陸)
11月30日	(オスプレイ3機 厚木基地離陸→岩国基地へ)
12月4日	(原子力空母ロナルド・レーガン 横須賀基地 入港)
12月22日	記念誌・原告団ニュース60号発送

沖縄支援行動 第二陣12/18~20報告



12月19日早朝から雨の中、キャンプシュワブゲート前で座り込み行動に参加

解散総会のお知らせ

第四次厚木爆音訴訟原告団は2017年12月31日で終了となりますが、会計報告など、まとめの集約を報告する最終代議員総会を下記の通り開催致します。

第四次訴訟原告団の役員の方々とともに協議をして、細部の議案等は後日原告の皆さんにお送りします。

記

とき 2018年3月18日(日) 10:00分~(約2時間)
ところ 海老名市商工会館 3F大ホール
※ 海老名市めぐみ町6-2 (小田急・相鉄線海老名駅)
電話046-231-0225
議題 四次訴訟原告団まとめ

終了後 懇親会
※ 参加希望の原告は、2018年3月9日(金)までに各支部長・幹事または事務所にお申し込みください。



相鉄線
海老名駅から
(略図)